

	山形大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理学部（第1年次:185） 大学院理工学研究科（M:323 D:31）
沿 革	大正9（1920）年 山形高等学校創立 昭和24（1949）年 新制山形大学文理学部設置 昭和42（1967）年 理学部に改組 昭和53（1978）年 地球科学科設置 昭和54（1979）年 大学院理学研究科修士課程設置 平成11（1999）年 大学院理工学研究科博士前期課程及び博士後期課程 設置（改組）
設置目的等	<p>山形大学理学部・大学院理工学研究科の母体である山形高等学校は、高等普通教育の充実を目的として大正9年に設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、山形高等学校は、山形大学文理学部として承継された。</p> <p>昭和42年に、自然科学の基礎的分野の教育研究を通して広く知識を授け、科学的手法を身につけた専門的素養をもつ人材を養成することを目的に、文理学部を改組し、理学部を設置した。</p> <p>昭和54年に、理学部における専門的知識を基礎として広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養成することを目的に、大学院理学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成11年に、理学と工学が有機的に連携した学際的・総合的な高度教育研究体制の確立を図るとともに、地域の特色ある自然環境を教育研究に有効に活用しながら、今日の人類社会が直面している地球環境問題を解決し、人間活動と自然環境との調和的発展を図るために活躍できる創造性と実践能力のある人材養成を目的に、大学院理学研究科修士課程を廃止し、大学院理工学研究科博士前期課程・博士後期課程を設置した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>山形大学は、知的探究心に基づき自然界の普遍的真理を追求するとともに未来を担う若者に自然科学の基礎を教授することを通じて、自然環境と調和し共生する人類社会の発展に貢献することを目指し教育、研究、社会貢献に取り組んできたところであり、以下の</p>

強みや特色、社会的な役割を有している。

- 幅広い教養、自然科学の基礎となる理論体系、方法論、実験技術等を実践的に身につける教育を展開し、急速な社会の変化と科学技術革新に柔軟に対応できる高度な専門人材の育成の役割を充実するとともに、独創性を有し人間の諸活動と自然環境との調和を目指した科学の発展に貢献できる高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。
- 学部・研究科共通専門科目、海外特別研修、職業観形成学習プログラムなどの特色ある教育改革と海外協定大学との交流を進めてきた実績を生かし、キャリアパスの多様化とグローバル化に対応した人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- 素粒子・物性・宇宙にわたる物理現象をスピンによって統一的に理解する基礎物理学やナノ材料を中心とする機能物質化学の高い研究実績と、生物学・地球科学に基づく自然環境の研究基盤を生かし、理学の諸分野が連携することによって創出される革新的な分野横断的研究を推進する。
- 高感度加速器質量分析装置等を整備した学内諸施設による他大学・研究機関等の研究者の調査研究等への協力・支援や、山形県及び周辺地域での自治体行政への協力など、組織的な地域貢献の実績を生かし、学術の進展や地域の知識社会化の推進に寄与する。
- ナノメタルスクールをはじめとする基礎研究と産業界をつなぐ組織体制を強化し、産業基盤創生に資する挑戦的課題を発掘・研究することによって、大学院への社会人受け入れを促進し、産業界が真に欲する人材育成や高度化・活性化を図る。
- 星空案内人制度や、やまがた「科学の花咲く」プロジェクト・マイスター養成講座などの資格認定制度によりサイエンスコミュニケーターの養成を促進するとともに、大震災被災地支援に資するサイエンスボランティアの養成を図り、小中高生をはじめとした科学普及活動を通じて日本の理科系人材の裾野拡大に貢献する。